

意見交換会発言記録

1. 質疑

【質問】：設備関係の色が茶色に統一されていたが、セメントサイロだけ白色であった。何らかの配慮があるのか。

【回答】：国立公園内であるため、環境省の指導に基づき仮設備の塗装は茶色を基本とした。セメントサイロについてはコンクリートの品質確保のためセメント温度の上昇を抑える必要があったため、環境省と協議を行い白色の塗装とした。

【質問】：国立公園内での工事ということであるが、仮設備の塗装色以外に特別な制約はないのか。

【回答】：仮設備の高さ制限が 13m である等の制約がある。施工計画の検討時に環境省と包括協議を行っているが、その後詳細が決まったものや計画変更があったものについては個別に協議を行っている。

【質問】：冬期越冬時のコンクリートの養生方法を教えてほしい。

【回答】：コンクリート表面に砂を敷いた上にさらに断熱マット、シートで養生する計画である。今後それらの効果を確認していく。冬期の打設休止期間は 12/21～2/20 で計画している。厳冬期には気温が-15℃まで低下するが、養生方法などを工夫して出来るだけ長期間打設を行えるようにしたいと考えている。

【質問】：仮設備が下流側に集中しているが、設置位置について他に検討したのか。

【回答】：湯西川は谷が狭隘であるため、上流側にはプラントを設置できる場所がなかった。現在プラントを設置している下流の用地は、中学校の跡地である。使用可能な用地が限られているためコンパクトな配置となるよう留意した。

【質問】：左岸側はアプローチ道路がなかったが、どのように基礎掘削を行ってきたのか？

【回答】：人力掘削からスタートし、ミニバックホウを入れた後徐々に大型の機械を投入していった。資機材の運搬も、最初は立木にアンカーを取るような小型の軽索（0.75t 級）からスタートし徐々に大きくしていった。機械類も分解して運搬し、施工場で組み立てた。掘削ズリは河床部へ押し落とし、河床部で積込みを行い搬出した。

【質問】：設計に関する部分で計画時から変更となった箇所はあるか？

【回答】：掘削面のゆるみ対策を変更した。基礎掘削によるゆるみを生じ易い岩盤であるため、法枠、ロックボルトやモルタル吹付等の対策を行っている。早期の対応が肝心である。

【質問】：湯西川ダムのダム高は当初計画よりも低くなったということだが、貯水容量はどれくらい減ったのか。

【回答】：9,600 万 m³から 7,200 万 m³へ減っている。上水の利水計画の見直しにより減少した。

【質問】：湯西川ダムのだうサイトはどのような手順で決定されたのか。

【回答】：ダム計画を立案する際には治水効果が高い位置にダムを建設することが肝心であり、そのため湯西川にダムを建設することが決定されている。ダムサイトを決定する手順としては、大きくは①航空写真や地形図から候補地を決める、②現地踏査を行って大まかな位置を決める、③地質調査結果に基づき配置設計を行いダム軸の向き(座取り)を決定する、という手順である。湯西川ダムでは、③地質調査で基礎岩盤にゆるみゾーンの存在が確認されたため、ダム軸左岸側を下流へ振って緩みを避ける配置とした。

以上